在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2017/07 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集１　「切り替える」とは「助走期間を大切にすること」　◆

湖陵祭も終わり、いよいよ夏休み間近です。湖陵祭への準備には、精一杯取り組めたでしょうか。うまくいったという満足感はすばらしいことですが、自分達なりにやれるだけはやったという充実感もまた、立派な財産です。うまく人と協力できなかった、もっとこうすれば良かったという悔いも、自分を見つめ直す勇気があるからこそ生まれてくるものです。自分のことを自分で見つめ直せない人は、後悔すらできない（反省すらできない）ので、それも財産になることでしょう。

さて、湖陵祭も終わり、「切り替えないと」と思っている生徒は多いと思います。湖陵祭に力を注いで、勉強がおろそかになっている人もいるのではないでしょうか。あるいは、夏休みに取り戻そうと「夏に期待する」生徒もいると思います。特に 3 年生に言いたいのですが、「夏休みにこれも、あれもがんばって」と期待して（意欲に燃えて）も、うまくいかないことの方が多いと思います。今まで、勉強する習慣がない状態で、いきなり、1 日 10 時間といってもうまくいくはずがありません。3 年生から夏休み後によく耳にするのは、「もっと夏休みに勉強できると思っていたのに・・・、もう夏休み終わっちゃった。」という言葉です。1・2 年生も同じです。

さて、どうすればいいでしょうか。面談等で生徒の話を聞いていて気付いたのですが、夏休みにいいジャンプができない人の共通点は、「助走がないこと」だと思います。体操選手などの例を出すまでもなく、いい跳躍をする選手は、ものすごい勢いで助走しますよね。勢いだけでなく歩数等も計算に入れて助走します。いずれにしても、助走が大切です。その助走期間にあたるのが、２６日（水）の終業日までの期間ではないでしょうか。今日、家庭学習が「ゼロ」で夏休みの飛躍もへったくれもありません。湖陵祭が終わった今、助走期間は始まっているのです。

しかし、いいジャンプは助走だけでは、成り立ちません。そうです。「踏み切り」です。これにあたるのが、学校で行っている「夏期講習」です。これが、踏み切りです。夏期講習が夏休みの最初に設定されているには訳があります。夏休みのがんばりを支える「踏み切り」の役割があるのです。助走と踏み切り、「夏休み前の全力勉強」と「夏期講習」で夏休みに大きくジャンプしてほしいですね。夏休みまで、数日しかありません。助走期間は短いですが、短いからといって、助走しても意味がないわけではありません。助走期間は、夏休みにしたいと考えている勉強をしてみることです。勉強量を増やしたいと思っている人は、今日から増やしてみることです。助走期間の全力勉強が飛躍をもたらす可能性を生むのです。

◆特集２　学問の「本質」を究める　◆

３年生は最後の高体連、最後の湖陵祭が終わりました。後は受験のみです。湖陵祭明けの夏休みについて卒業生からいろいろと話を聞きました。

成功
- 毎日１０時間、コツコツと勉強する
- あれも、どれも、ではなく、基礎基本を中心にできることを確実に学び、理解していく
- 好きな教科は好きなだけ究め、苦手科目は時間を決めて取り組む

失敗
- 切り換えがうまくいかず、規則正しく生活できなかった
- 基礎基本は理解できたことにしてしまい、標準以上の問題ばかりチャレンジする（４ステップだと、Ｂ問題を中心に演習してしまった）
- 各科目の目標点が漠然としすぎて、何となく勉強してしまった
- センター試験の過去問だけをやる

３年生には６月９日（金）の進路説明会で話しましたね。まずは１０時間。自分自身で考えたオリジナル計画でドンドン取り組んでいきましょう。センター試験は過去問ばかりやっても力は付きません。あくまでも基礎・基本です。それだけで７割は取れるんです。

もう一つは各教科、何点を取るかを明確にすること。その点数を取るための勉強をしてください。あとは自分を信じてやっていくだけです。

どの学年でもそうですが、学問を学ぶ、ということはただ単純に暗記すればいいものではありません。高校受験ではそれが通用したことでしょう。塾に通い、片っ端から丸暗記しまくっていた生徒も多かったのではないでしょうか。

しかし、大学受験では全く歯が立ちません。歴代の湖陵生は自分でそれを悟り、勉強の仕方を自分なりに変えていきました。

では今の生徒はどうでしょうか。何となく分かってはいるのに中学時代と同じ勉強を続けている、そんな生徒が多いと思います。

学問の「本質」を究めようとすれば、それだけ深く物事を学ぶことになりそこでようやく「理解」したことにつながるのではないでしょうか。その結果が勉強を「楽しむ」ことにも結びついてくるはずです。早く本物の「学び」を味わってください。

◆特集３　夏休みのポイント　◆

夏季講習

「寝坊してしまったので、午後の部活動から参加しよう」などという甘っちょろい考え方では、とうてい受験では戦いきれない。休むことなくきちんと受講することが大切である。講習内容は、担当の教員が特に必要と考える内容がつまっているはずである。重要な内容を一気に学習する好機である。3 年生は人生最後の夏季講習にすべく、がんばれ。

夏季講習の復習

夏季講習の復習も大切である。復習とは、家で解答集等を見ずに解き直したり、辞書や資料集などを使って確認したりすることだ。それを実行するからこそ、力がつくのである。ここで陥りやすい罠がある。学校の講習も学校外の講習も生徒が理解できるように説明がなされる。その場では、「わかった」感じがするからこそ、「わかったんだから復習はいらない」と思っている高校生が多い。わかったと思っているものを、きちんと答案として自力で「解けるかどうか」をもう一度、同じ問題に挑戦してみることを通して確認する。それが復習だ。

テキストのやりっ放しは中学生にでもできる。中学生は大学には行けない。つまり中学生の時と同じ勉強の仕方や勉強時間では、大学受験に失敗する。こんなことははじめからわかっていることだ。もう一度、自分の勉強方法・時間を見直そう。

普段の遅れを取り戻す

苦手な科目や練習量が足りていない科目は誰しもある。日頃、足りないことに取り組むいい期間である。数学が苦手だから、数学の「　○○　」という分野を集中的にやろう、などのように決めて学習しよう。

夏季講習が終了した日とその次の日

夏季講習がなにゆえ、夏休みの最初にあるのか。なにゆえ、普段とほぼ同じ時間から始まるのか。それにはきちんとした理由がある。

夏季講習が大切とはいっても、講習ですべてのことが勉強できるわけではない。その後の夏休みの勉強の「きっかけ」という要素があることを覚えておいて欲しい。講習に出ることによって、自分の弱点が見えたりすることもあるだろう。自分の勉強計画を変更しなければならないかもしれない。夏季講習は残りの夏休みを勉強面で意味あるものにするために、夏休みの最初に置かれている。

時間についてもはわかるだろう。生活のリズムを整える意味もある。

これらのことから、

①夏季講習の最終日、家に帰って勉強しないのは、もってのほかである。ここからを有意義に

するための「きっかけ」なのに、「きっかけ」として利用していないからである。
②夏季講習が終了した次の日、部活動に入部していない人、あるいは部活動が午後から始まる人が、朝ゆっくり寝て、午前中まったく勉強しないというのも、「きっかけ」として利用していない。なかなか言うように簡単にはいかないのは十分承知で、それでも敢えて言う。講習終了の次の日も、部活動が午前中にある人を除いて８：４０～勉強してみよ。実行できた人は、次の日もできる。それが「きっかけ」としての使い方である。

スマートフォン等

携帯電話・スマートフォンなどに使う時間が多すぎる。とにかく多すぎる。得なくてもよい情報にまみれると疲れるだけである。そこで疲れても勉強時間が減らないタフな人はどれほどいるのか。そんなことで、勉強時間を減らすことは、自分が自分の夢から遠ざかっていることを意味する。

3年生は1日１０時間を継続

1 日の学習時間は、集中できるならば、もっとやった方がいい。でもと言う人は、10 時間は勉強しよう。本当は時間だけではなく「質」も重要なので、勉強を積み重ねて来た人は、自分のペースで継続させればよい。ここでは、いままで、勉強が不足していた 3 年生についてである。10 時間というのは、なんとなくだらだら 10 時間机に向かっているという意味ではない。休憩等の時間を除いて 10 時間できるかどうか、挑戦してみよ。ただし、まだ部活動を引退していない人もいるだろう。その人にとって、10 時間は無理だと思う。しかし、時間はなくても勉強はできる。「計画」で勝負である。時間がすくないのに、なおかつ行き当たりばったりの勉強では、勝ち目はない。部活動をやりつつ、勝ちたいならば、やることを少し整理したり、家に帰ったあと、何から勉強するのか、きちんとイメージすることが大切である。以下の計画について、必ず実行してほしい。

進路そのものを考えよう
夏休みは「進路」そのものについて考えるよい期間です。保護者の方ともジックリ時間をかけて話してみましょう。時間がたくさんあります。有効に使って下さい。

★特集４　北大入試研究会（数学）

シリーズの最後は河合塾の数学です。高橋洋輔先生、よろしくお願いします。

理系数学
＜全体＞
・分量は減少し、難易は易化した。
・今年も数学Ⅲからは「微分法・積分法」と「複素数平面」の問題が出題され、「複素数平面」の問題は式の処理がやや難しかった。
・北大理系では珍しく、整数問題（文系との類似問題）が出題された。
＜大問構成＞
第１問　式と証明（数学Ⅱ）、整数（数学 A）
第２問　微分法・積分法(数学Ⅲ)
第３問　複素数平面（数学Ⅲ）
第４問　確率（数学 A）
第５問　図形と方程式（数学Ⅱ）
＜各大問ごとの分析・コメントなど＞
第１問
(1)は数Ⅱの不等式の証明問題
(2)は(1)の不等式を利用して不定方程式を解く問題だが､(1)を利用しなくても解ける。
河合塾では来年も整数問題が出題されることを予想している。
第２問　関数の最大・最小問題と絶対値の付いた関数の定積分の計算問題である。
(1),(2)は教科書レベルの基本問題であり落とせない。
(3)は絶対値の付いた関数の定積分の計算問題で、関数のグラフと x 軸との交点の座標を求める必要があるのですが、ここでつまずいてしまった受験生が多かったようです。
第３問
複素数平面での三角形の外心についての問題。５問の中で最も出来が悪く、(2)はほとんどできていない。(1)も何をすればよいのかわからなかったという合格者もいたそうです。河合塾の医学部医学科以外の理系合格者の正答率は(1),(2)の正答率はそれぞれ 39 %、0 %であり、(2)は合否に影響がなかったようです。
複素数平面の出題は２年連続でした。
第４問
さいころの目で点を移動させるよくある設定の確率の問題。合格するには完答したい１題であるが、(3)でのミスが目立った。ミスなく数え上げる力をつけることが重要です。
第５問
三角形と円を素材にした領域の問題。計算は難しくないので、きちんと図を描いて考えると完答が狙える。図形と方程式からの出題は久しぶりだったが、来年も注意が必要と思われる（河合塾の予想）

文系数学
＜全体＞
・分量は昨年と変化がなかったが、難易は易化した。
・北大文系の頻出分野である確率の問題が復活した。
・２年連続で、整数問題（今年は、理系との類似問題）が出題された。
＜大問構成＞
第１問　式と証明（数学Ⅱ）、整数（数学 A）
第２問　平面ベクトル　（数学 B）
第３問　確率（数学 A）、数列（数学 B）
第４問　微分法・積分法（数学Ⅱ）、２次関数（数学Ⅰ）
＜各大問ごとの分析・コメントなど＞
第１問
(1)は数Ⅱの不等式の証明問題
(2)は(1)の不等式を利用して不定方程式を解く問題だが､(1)を利用しなくても解ける。
理系第１問の類似問題。
２年連続で整数問題が出題された（河合塾の予想では来年も出題されるだろう）。
第２問
円を素材とした内積計算の問題。
4 問の中で最も出来が悪く、(1)の結果を求められたとしても、(2)はどのように式を整理すればよいかなど、方針が立てられなかったようです。
第３問
典型的な確率漸化式の問題ですが、北大文系での出題はあまりなく驚いた受験生も多かったと予想される。
第４問
定積分で定義された関数の決定と極値の問題。(1)は北大理系では頻出タイプだが文系では珍しい。定積分の部分を定数でおくことはほとんどの河合塾合格者ができていたそうです。